

各 位

上場会社名	株式会社 ジーダット
代表者	代表取締役社長 石橋 眞一
(コード番号)	3841)
問合せ先責任者	取締役経営企画部長 増山 雅美
(TEL)	03-5847-0312)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	790	1	32	20	1,041.66
今回発表予想(B)	694	△51	6	△4	△225.04
増減額(B-A)	△95	△52	△25	△24	
増減率(%)	△12.0	—	△78.7	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	1,234	295	322	215	11,237.28

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,630	2	85	50	2,604.16
今回発表予想(B)	1,450	△100	20	0	0.00
増減額(B-A)	△180	△102	△65	△50	
増減率(%)	△11.0	—	△76.5	△100.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	2,074	227	264	58	3,072.86

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	790	△4	28	17	885.41
今回発表予想(B)	694	△64	△1	△11	△624.61
増減額(B-A)	△95	△59	△30	△28	
増減率(%)	△12.1	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	1,227	273	302	198	10,340.70

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,630	0	88	52	2,708.33
今回発表予想(B)	1,449	△108	18	△3	△171.66
増減額(B-A)	△180	△108	△69	△55	
増減率(%)	△11.1	—	△78.7	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	2,063	200	238	36	1,913.86

修正の理由

1. 第2四半期累計期間

当社企業グループの主要な顧客である国内半導体関連及び液晶関連の製造業は、中国政府の「家電下郷」施策や日本政府のエコポイント施策等により、直近では最悪期を脱した感がありますが、売上高は依然として前年を下回っており、また低価格化の流れもあって利益面では一層厳しく、設備投資には予想以上に引き続き慎重であります。当社企業グループが扱うEDA製品はこの影響を直接に受けており、当初目標の達成が難しい状況となっております。他方、好調な韓国企業や中国企業に対して、優位性の高い製品を中核とした設計フローの提案を積極的に推し進めておりますが、設計フローの

改革を実現するというEDA事業特有の商談の足の長さから、国内の落ち込みを埋めるだけの短期的な成果をあげるまでに至っておりません。

以上の結果、売上高はその影響を受けて前回発表の業績予想値よりも95百万円減(12.0%減)の694百万円となる見通しであります。また、営業利益は売上高減少の影響を受けて同52百万円減の△51百万円となる見通しであります。経常利益ならびに四半期純利益についてもその影響を受けますが、事務所移転にともなう費用の一部の計上を営業外費用から特別損失に変更したことから、経常利益については同25百万円減(78.7%減)の6百万円、四半期純利益については同24百万円減の△4百万円となる見通しであります。

2. 通期

当社企業グループを取り巻く厳しい市場環境は、第3四半期以降も継続することが予想され、通期の連結業績予想についても、前回発表の業績予想から下方修正いたします。

(その他投資者が会社情報を適切に理解・判断するために必要な事項)

業績予想につきましては、発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって異なる場合があります。

以 上